

## 時事座談会

### 新台湾國策シンクタンク

兩岸經濟合作委員會(略称、經合会)は、今年2月22日に初の例会を召集し、中台双方で貨物、サービス等6つのタスクチームを設立することで合意した。3月中旬に第1回交渉を開始することも決められた。この件に関し、新台湾國策シンクタンクは3月1日午前に座談会を開き、經合会の政治的、経済的意義に関する検討を行った。

本シンクタンクの執行委員長羅致政氏が最初に発言し、中国國務院台湾弁公室(国台弁)王毅主任が「2011年新年に寄せる」と題し発表した談話の中で、「政治基盤を強固にし、正確な方向を保持し、発展の中身を充実させる」の3原則を提起したが、今回の經合会例会の開催か、中国海協会陳雲林会長の台湾中南部訪問かの何れを問わず、共に上記3原則の具体的実現に他ならないと指摘した。それは即ち、台湾独立反対、92年合意の堅持、及び兩岸各種交流発展の深化とECFAの実現を図るものであり、戦術的に解釈すれば、「虚と実を兼ね備えつつ、交互に掩護す」の実践であり、陳雲林会長の中南部に於ける恩恵宣伝の旅は「虚」であり、經合会こそが「実」で、政治的側面を強調したものだとも語った。然しながら、2月22日の經合会初の例会だけに絞って観察すれば、所謂「共同結論」は各自の見解を一方的に述べたものに過ぎず、会議は本質的には失敗に終わったと言わざるを得ない。今後3月中旬以降に開催される一連の交渉こそが、本当の真剣勝負であり、それに関連する利害関係や効果の拡散等の問題は、立法院(国会)の、特に野党が厳しくチェックせねばならないもので

ある。

清華大学中国学程の洪財隆准教授は、經合会の最大の問題は、編制上の問題と交渉のメカニズムにあり、更にECFAが未だにWTOに届出されていないのが問題だと指摘した。ECFAの最大の特徴はヒット-エンド-ラン戦術にあり、自由化のタイムテーブルが決められていないのは、一般の自由貿易協定(FTA)が、最初から「プラン-エンド-スケジュール」を決めるやり方とは相違している。そのためECFAは今のところ大まかな枠組みを備えているだけで、多数の内容が不確定的で、編制上でも、經合会に相当大きな権限と責任を付与している。中でも、ECFAの後続的協議を進める職務権限の他に、「ECFA紛争解決協議」が締結される以前のECFAに関連する一切の解釈、実施、適用上の紛争を処理する権限を有している。アーリーハーベスト-リスト中の「双方の臨時的防衛措置」の中でも、經合会は受訴機関として機能し、将来ECFA関連の貿易救済措置に就いても同様なやり方を踏襲するなら、經合会の役割は尚更複雑化し、その負荷もECFA第11条に規定されてある經合会のあるべき姿を大きく離脱するものとなろう。この点に関し馬政権は、經合会は単なる協議のメカニズムだと宣伝しているが、それは事実を糊塗する釈明に他ならない。次に、WTOの規定によれば、特惠的扱い等の重要な協議は、正式に実施される以前に届出手続を完了すべきだとされているにも関わらず、中台のアーリーハーベスト協約が既に実施された今でもWTOには報告されておらず、

関連規定に違反した行為だといえる。その他に、台湾は中国に対し貿易黒字を享受しているに関わらず、海協会の陳雲林会長が尚も台湾からの調達を増やし、自国の貿易赤字を更に拡大しようとしているのは実に不可解な仕草ではなからうか。

リベラル学者の集いである「澄社」の黄国昌社長は、経合会を「正常な規範の制約を逸脱したアメーバ」だと定義した。黄社長が懸念するのは、ECFA 第 11 条の規定によれば、タスクチームは経合会の監督を受け、且つ又条文内容の解釈を担当するものである故、経合会は単なるタスクのプラットフォームには止まらないということである。同時に、これ等の解釈は立法院(国会)の審査を受ける必要がないというのは、憲政の常道に悖る大問題である。この他、経合会が紛争処理のメカニズムを有するのであれば、裁判機構の設置が必要になるのではなからうか? その場合、経合会が下した結論は拘束力を有するものとなるのか? 馬政権当局は上記の諸問題に対し、今に至っても何らの説明も与えていない。馬政権がただ一時的な方便のゆえに、経合会の職権に対し条文の規範に符合しない解釈と説明を与えることになれば、経合会の性質、職権及び機能等が条文で規範されている内容から逸脱する。これでは、経合会は政権担当者のニーズと方便に従い、その位置付け及び機能に対し、政権当局が何らの規範や制約を受けずに絶えず恣意的解釈を加え、更に実際の運営を操作することで、正常な憲政システムの権力分立と監督のメカニズムをないがしろにするものとなる。最後に、経合会の役割は条文の具体的内容から

背馳したものであるゆえ、ECFA 第 11 条の経合会の位置付けに関する条文を修正し、台湾が法治国家たる精神を堅持するべきで、行政が方便によって行われるのは許容できない。

総括すれば、今回の経合会に於ける最大の収穫は、中台双方がそれぞれ欲しいものを手に入れたことである。然しこのことは一方で大きなジレンマに陥り、結局は「共同結論」が得られない事態となった。台湾側が「3プラス1の合意」を希望したのに対し、中国の国務院台湾事務弁公室の発表では「3つの合意」が達成されたとあり、結局幾つの合意が達成されたのかもやむやにされたままである。正常な会議ならばちゃんとした結論があつて、次回の会議の土台とされる筈なのではないか。経合会が「ガラス張り」の原則に反すれば、一方では監督が叶わず、他方では「白紙に黒字」の制約が欠けていて、最後は実力が物を言う結果となり、絶対的に中国に有利なものとなる。それ故ゲームのルールを「白紙に黒字」で列挙し、互いに遵守してこそ台湾の利益を確保することができる。3月中旬に予定されている1回目の交渉が本当の「始まり」であるので、国会開会後は、立法委員(国会議員)諸氏は須らく自分の責任を貫徹し、交渉の中で台湾の利益に関係する部分について厳しい目を向けなければならない。将来交渉の舞台が中国に移った場合には、情報の不透明さが危惧されるので、如何にしてガラス張りの透明化したメカニズムを構成するかが特に注目される。BT